

バス・路面電車運賃無料デー 結果分析

令和6年10月

長崎市

まちづくり部 公共交通対策室

1 概要

(1)目的

○物価高騰による市民の負担軽減を図りながら、公共交通の新たな需要を掘り起こすため

(2)実施者

○長崎バス、県営バス、長崎電気軌道、さいかい交通、富川運送

(3)対象路線

○長崎市内を運行する路線バス、路面電車及びコミュニティバスの路線
※高速道路を経由する路線と雲仙線は除く

(4)実施日

○令和5年度中の日曜日のうち7日間

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
日付	6/25	7/23	9/10	10/22	12/10	1/28	3/10
天気	雨 	曇一時雨 	晴後一時雨一時曇 	晴 	晴後一時曇 	雨一時曇後晴 	晴 
気温	23.6℃	28.8℃	26.6℃	16.9℃	15.8℃	6.7℃	8.2℃

1 概要

(5) 補助金

○無料デーを実施する公共交通事業者に対して長崎市から補助金を交付

ア 補助金の額

120,174千円

イ 補助金の計算式

令和4年度の日祝日の運賃収入平均額 × 1.5 × 実施日数（7日間）

(6) 広報活動

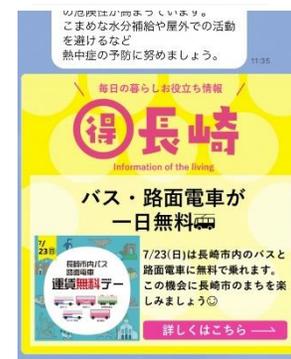
○ホームページ、車内掲示、広報ながさき、SNS、市長定例記者会見、道路情報板など



車内掲示



広報ながさき



公式LINE

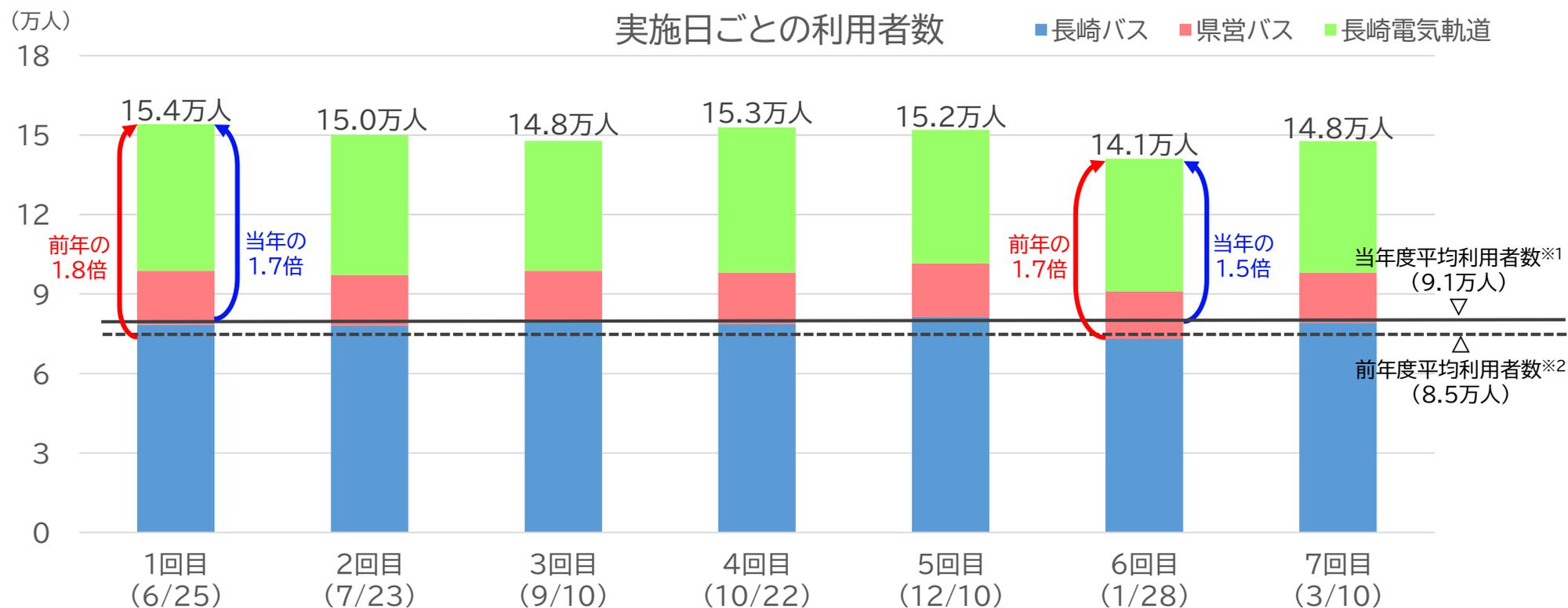


道路情報板

2 バス路面電車の利用者数

(1) 全実施日の利用者数

全実施日の利用者数を前年度平均や当年度平均と比較



※1 令和5年度の日曜日(無料デー除く)の日あたり平均利用人数

※2 令和4年度の日曜日の日あたり平均利用人数

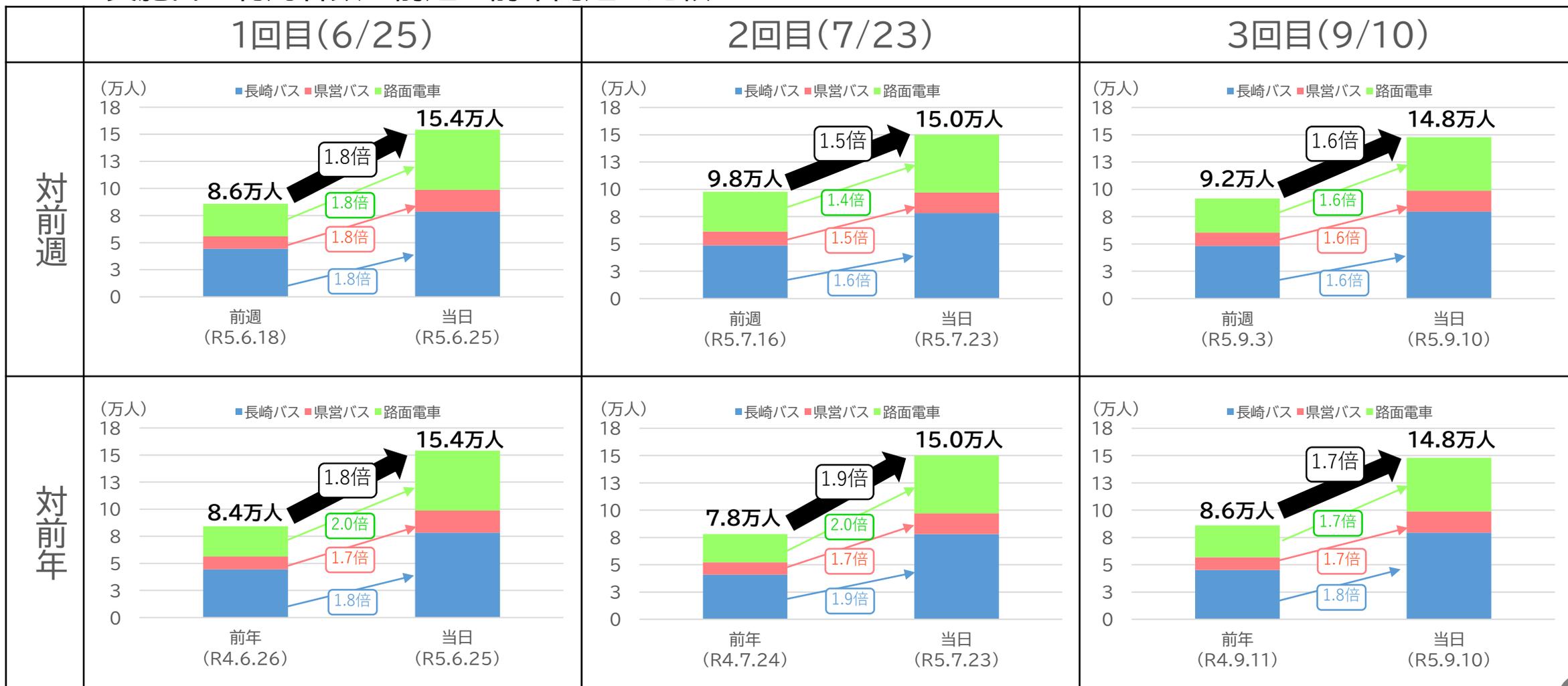
出典：各交通事業者提供資料

- 前年度の平均に比べ、**最大で1.8倍**・**最小でも1.7倍**の利用
- 当年度の平均に比べ、**最大で1.7倍**・**最小でも1.5倍**の利用

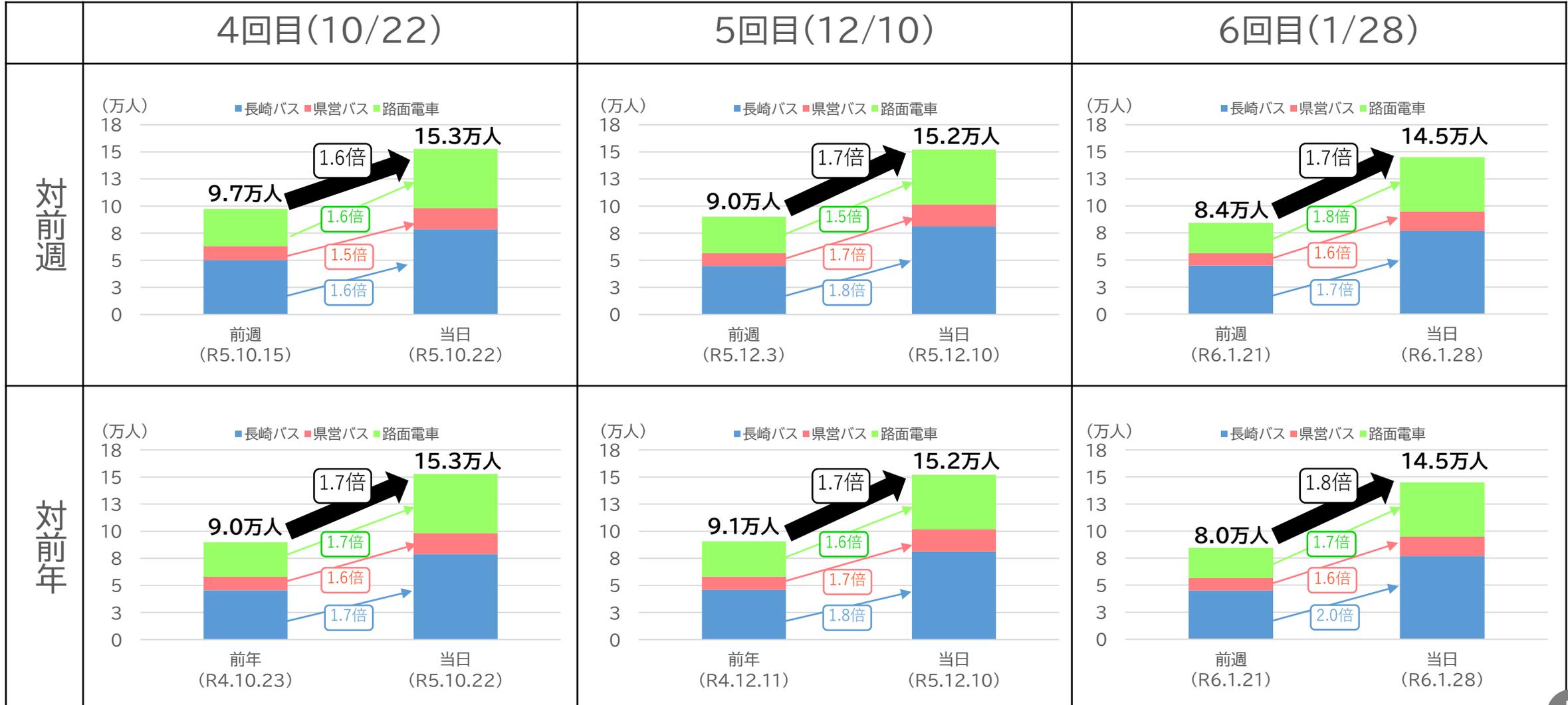
2 バス路面電車の利用者数

(2)実施日ごとの利用者数

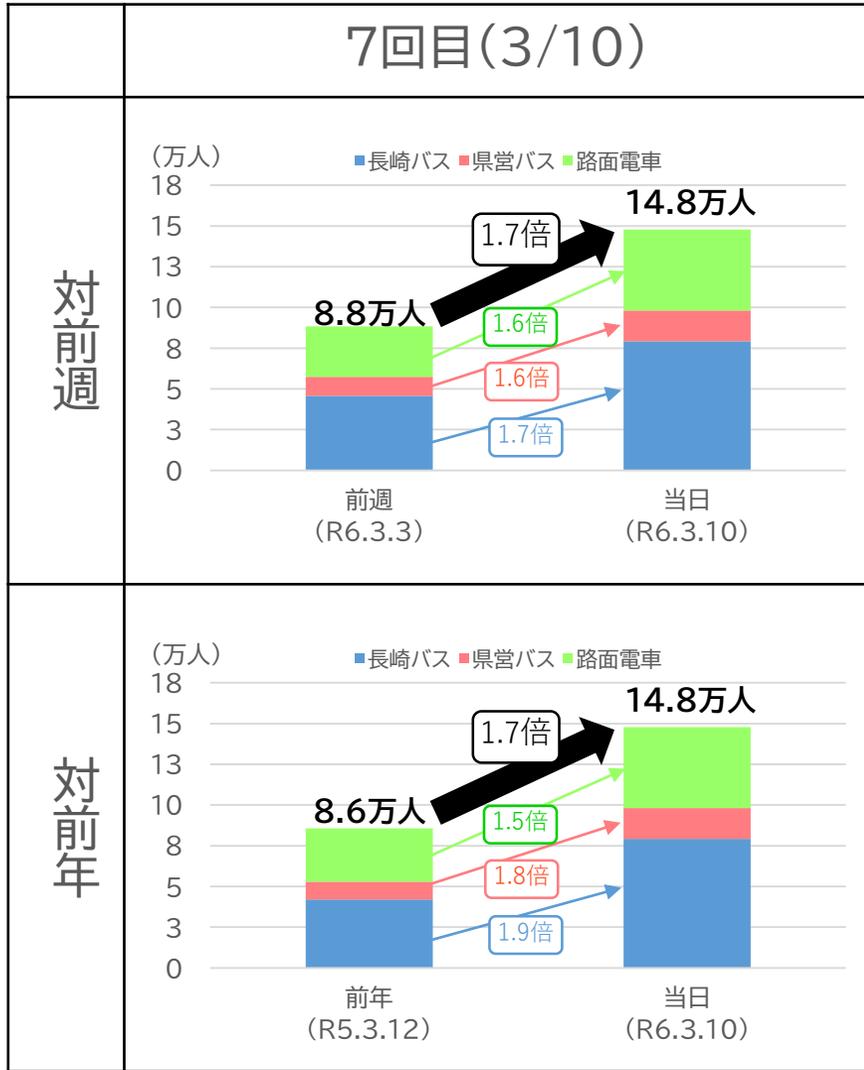
全実施日の利用者数を前週や前年同週と比較



2 バス路面電車の利用者数



2 バス路面電車の利用者数

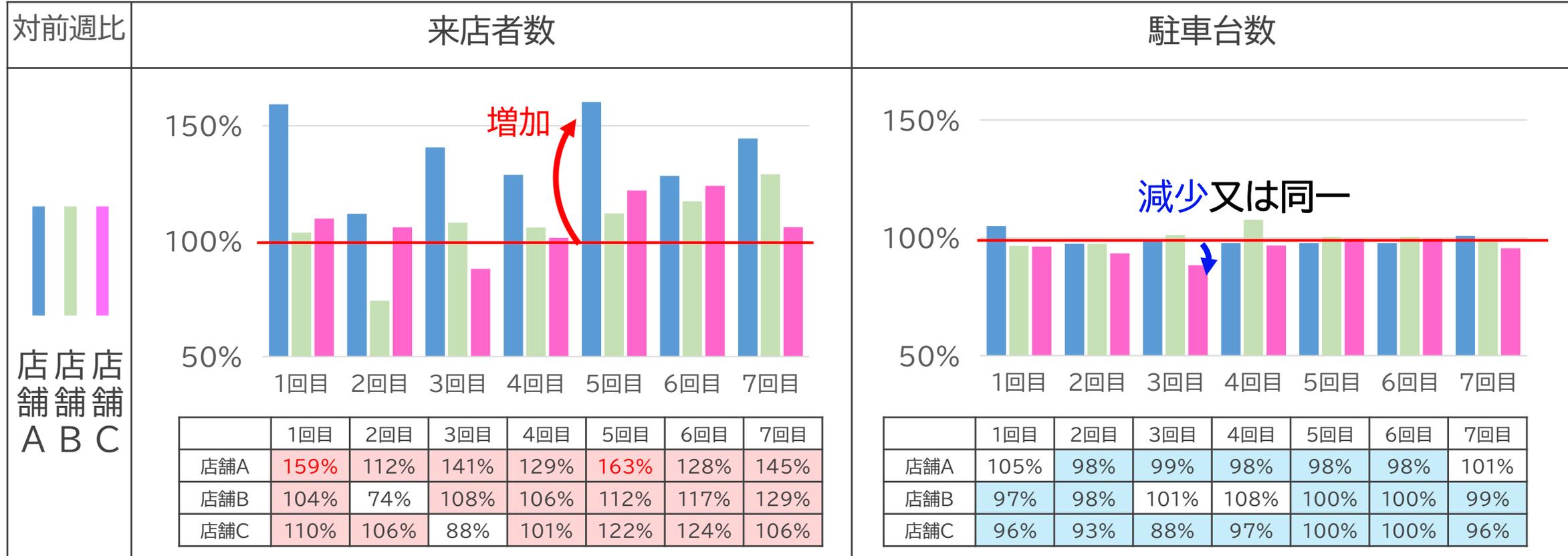


○利用者数は、前週の約1.5~1.8倍、
前年の約1.7~1.9倍に増加

3 実施による影響

(1) 商業施設の来店者数と駐車台数

商業施設の来店者数と駐車台数を前週と比較 ※前週を100%とする



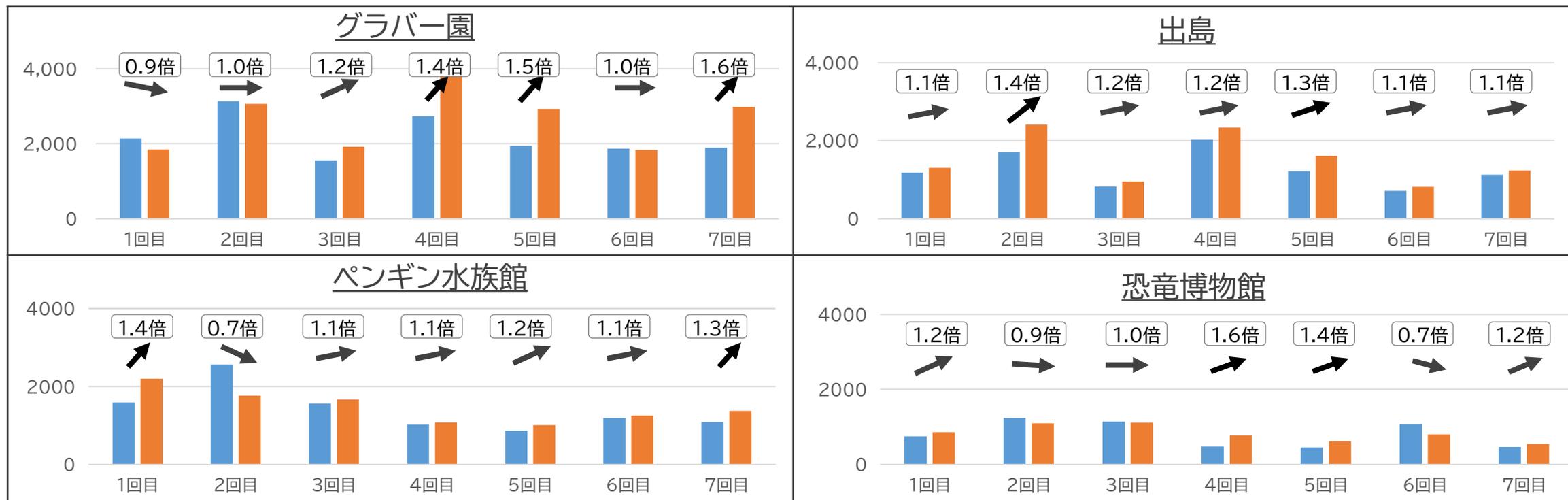
出典：各商業施設提供資料

- 来店者数は前週よりほぼ増え、150%以上の施設もある
- 駐車台数は前週よりほぼ減少又は同一で、自家用車でなくバス・路面電車での来店が増

3 実施による影響

(2) 観光施設等の来場者数

各観光施設等の来場者数を前週と比較（前週 ■■■■ 、当日 ■■■■ ）



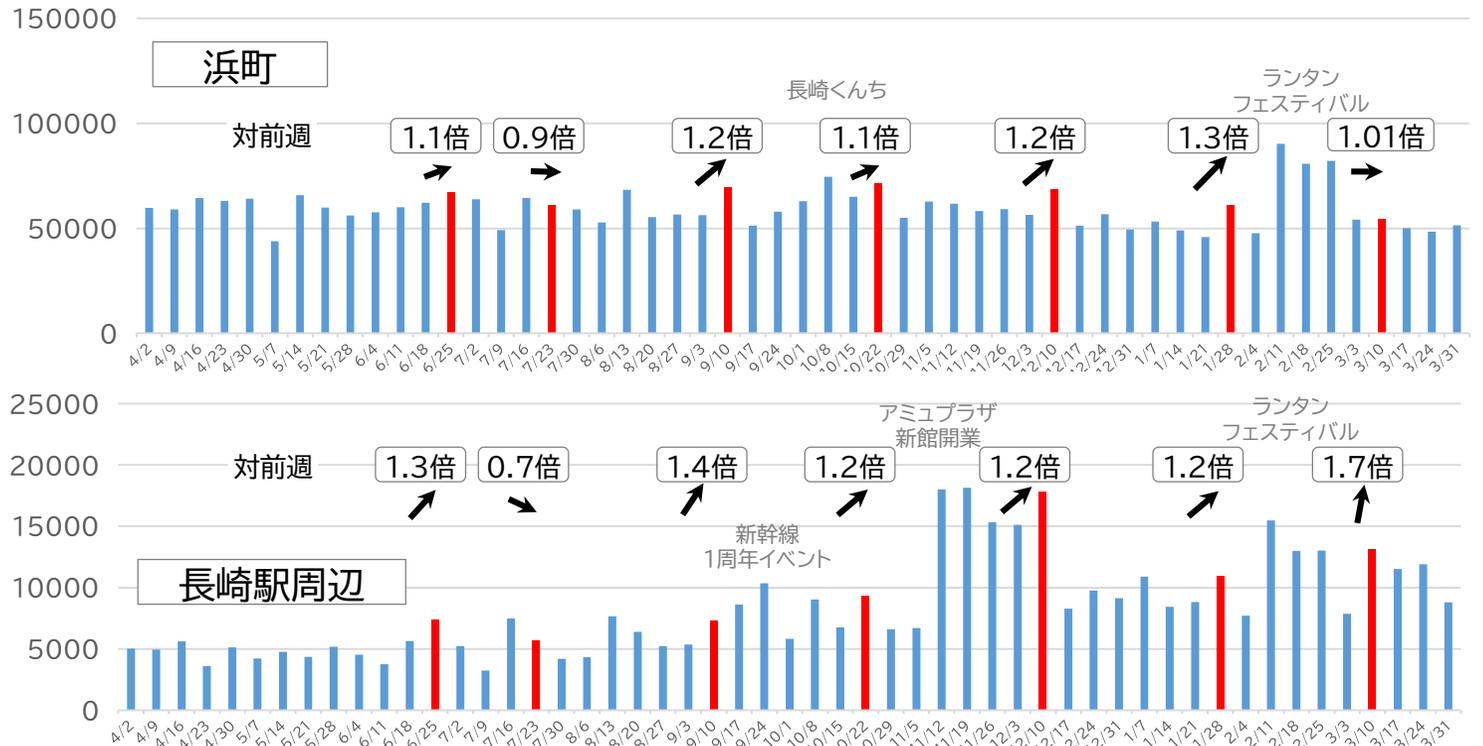
出典：各観光施設等提供資料

○各施設ともほとんどの実施回で前週の来場者数を上回り、1.6倍に増えた施設もあった

3 実施による影響

(3) 浜町、長崎駅周辺エリアの通行者数

浜町と長崎駅周辺の通行者数を令和5年度の各週と比較 ※主に前週と比較 (■ 無料デー実施日、 ■ それ以外の日曜日)



出典：KDDI Location Analyzer

- 浜町・長崎駅前周辺いずれも2回目（7/23）を除き前週より人通りが1.01~1.7倍に増加
- 他の週と比べて人通りが多く、まちなかの賑わいづくりに一定寄与

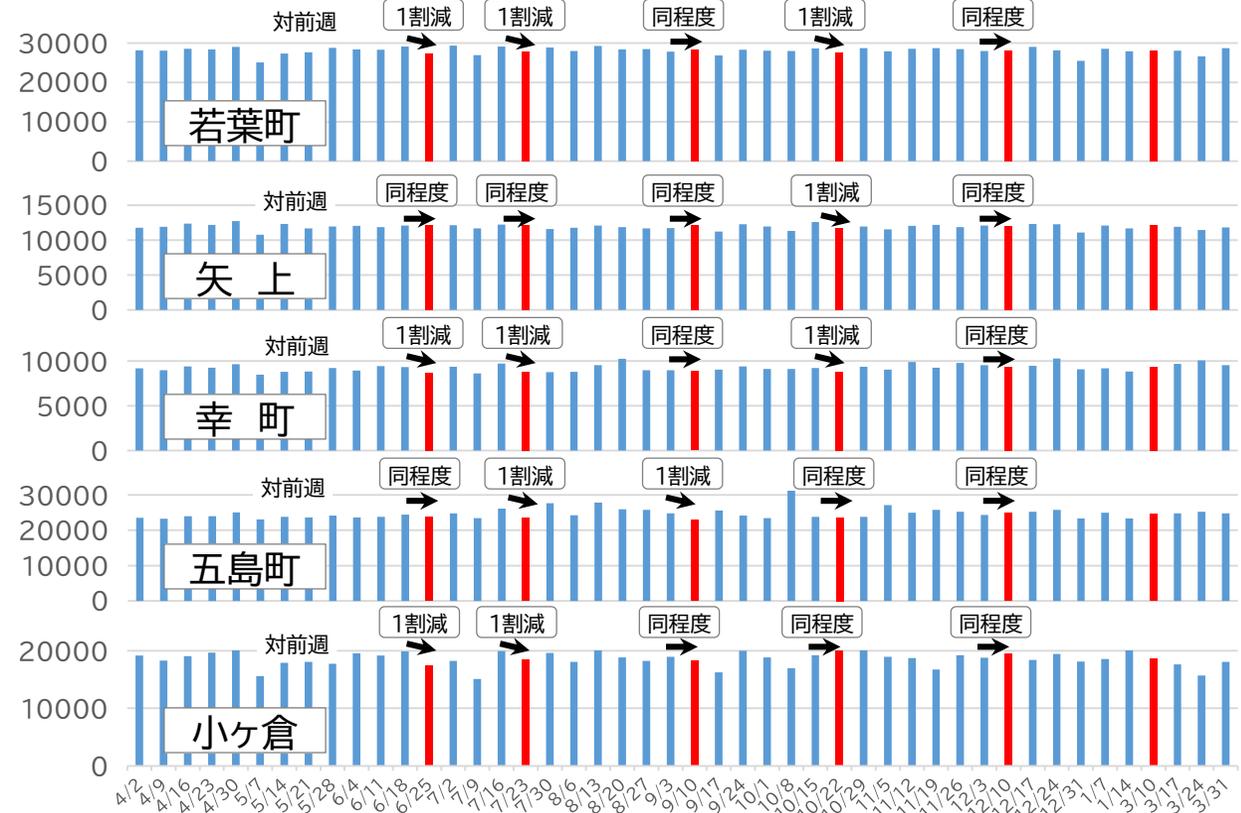
3 実施による影響

(4) 主要地点の交通量

主要地点の交通量を令和5年度の各週と比較



※主に前週と比較 (■ 無料デー実施日、 ■ それ以外の日曜日)



出典：日本道路交通情報センター (1月23日から3月3日は出典先にデータなし)

○交通量はいずれも前週より同程度または **1割減少**

4 アンケート結果

(1) 概要

調査手法：WEBアンケート（長崎市ホームページ）

周知方法：市・事業者ホームページや市公式LINEなど

調査期間：実施後7日間（例：1回目 6月25日～7月2日）

回答数：

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	合計
回答数	1,854人	612人	372人	480人	691人	611人	737人	5,357人
無料デー参加者数※	4万7千人	4万7千人	4万6千人	5万1千人	4万6千人	4万1千人	4万1千人	31万9千人
回答率	4%	1%	1%	1%	2%	1%	2%	2%

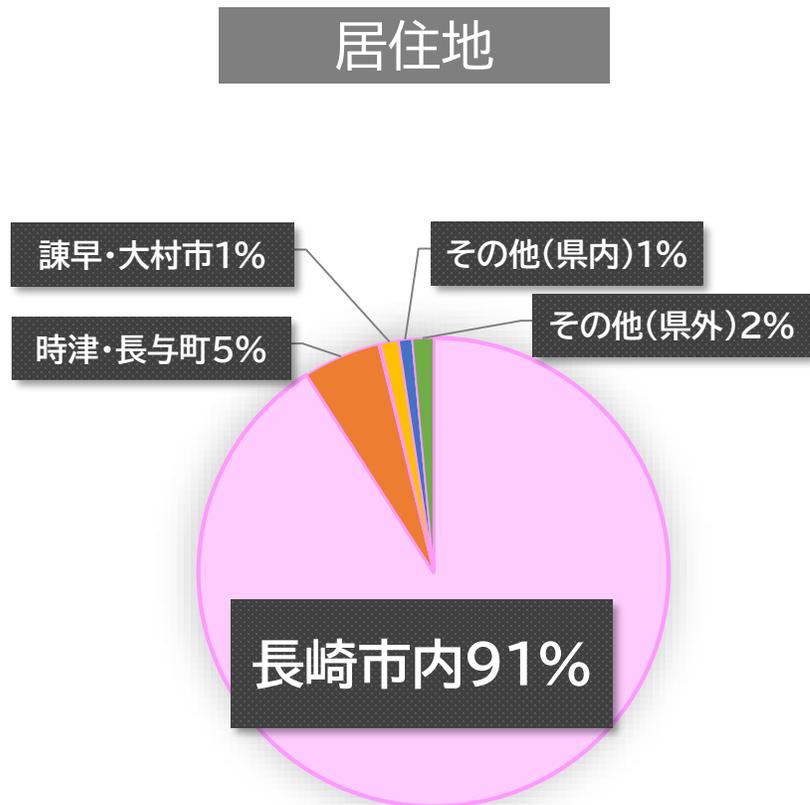
※無料デー参加者数は、アンケート結果の1人当たりの利用回数から算出した推計値

以降、回収率が最も高い1回目の結果を主に分析

4 アンケート結果

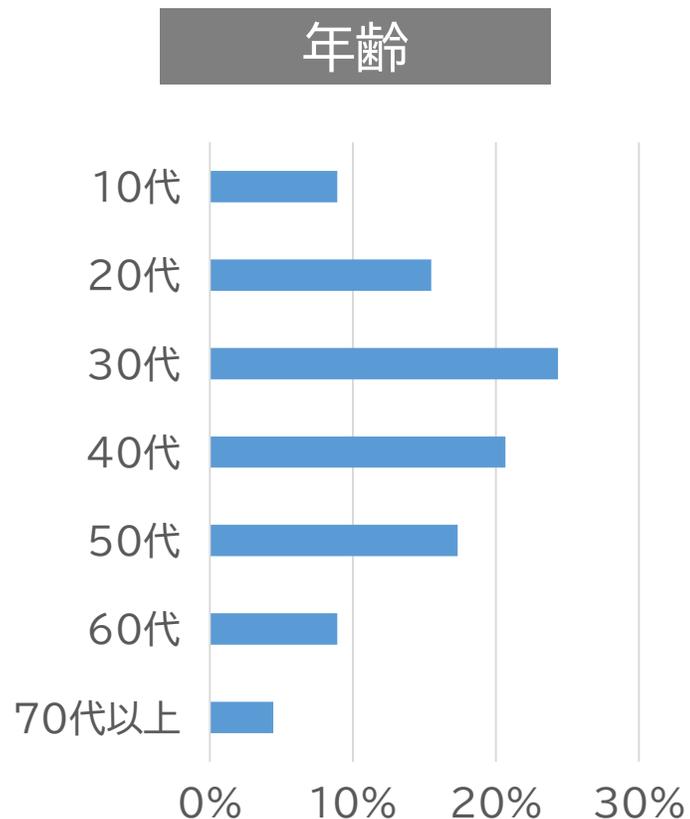
(2) 回答者属性

居住地



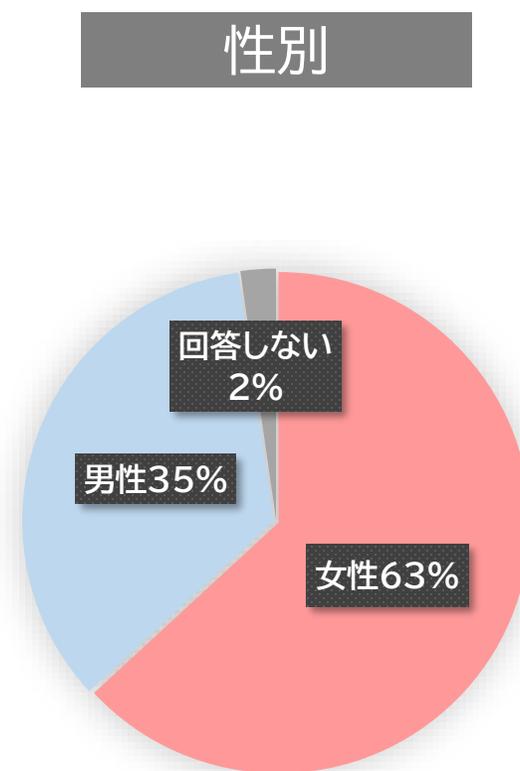
長崎市内が90%を超えた

年齢



WEBのため30・40代が多いが60代以上からも一定回答を得た

性別

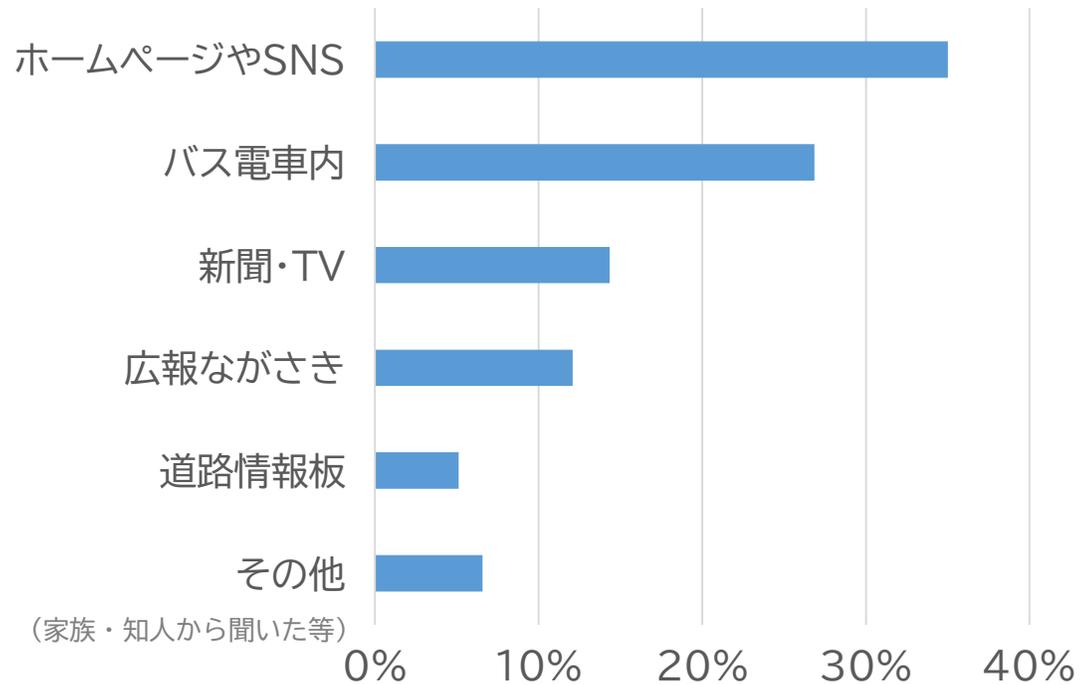


女性の割合が多かった

4 アンケート結果

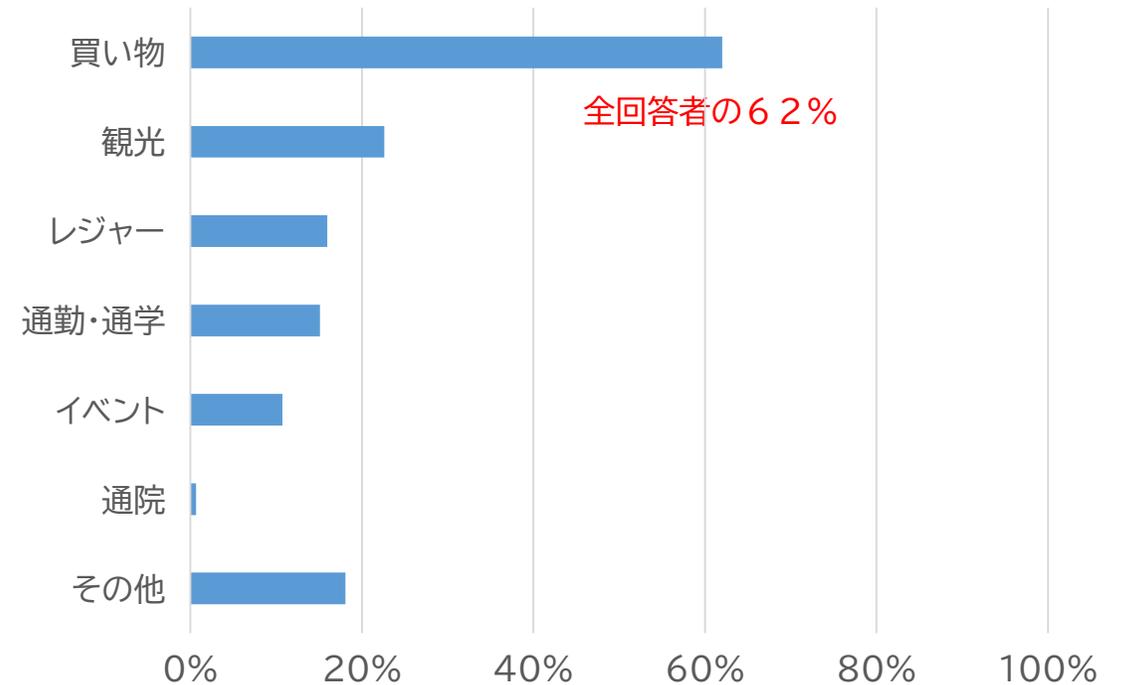
(3) 主な結果

ア：無料デーをどうやって知ったか？



各広報手段で周知が図られていた

イ：『お出かけ』の目的は？（複数回答可）

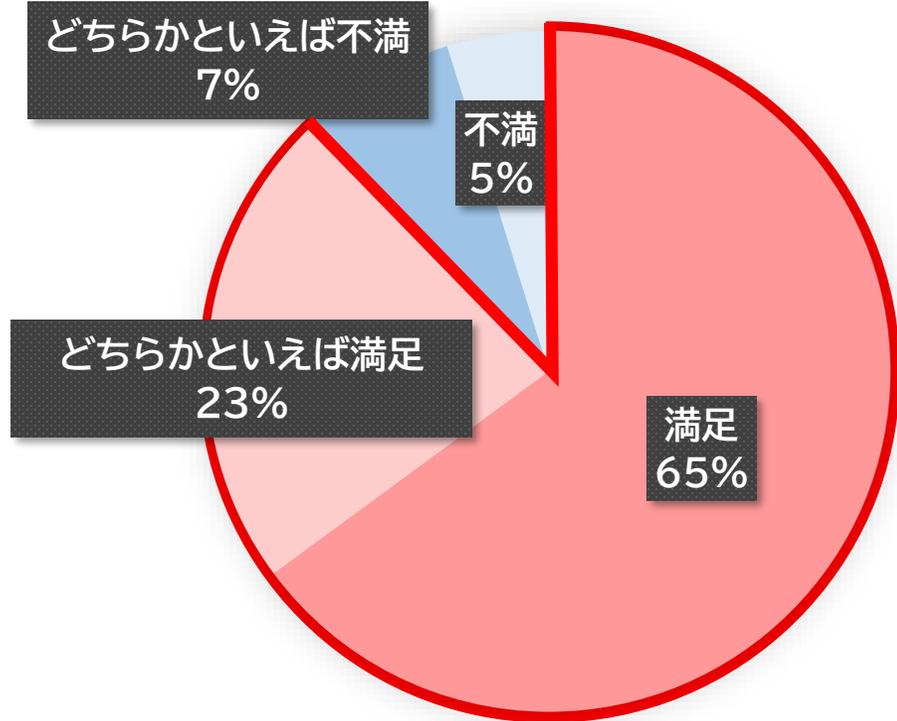


全体の60%以上の目的が買い物

4 アンケート結果

(3) 主な結果

ウ：無料デーは満足したか？



約9割が満足・どちらかといえば満足と回答

《満足側のご意見》



普段は車でしか移動しないので子どもたちと一緒にバスに乗って行くのが新鮮で、乗り方やマナーも教えられてよかった。

駐車場を気にしなくていいので滞在時間が長くなり、その分家族でお茶したり、とても有意義でした。



孫とバスを楽しむ事が出来ました。

《不満側のご意見》

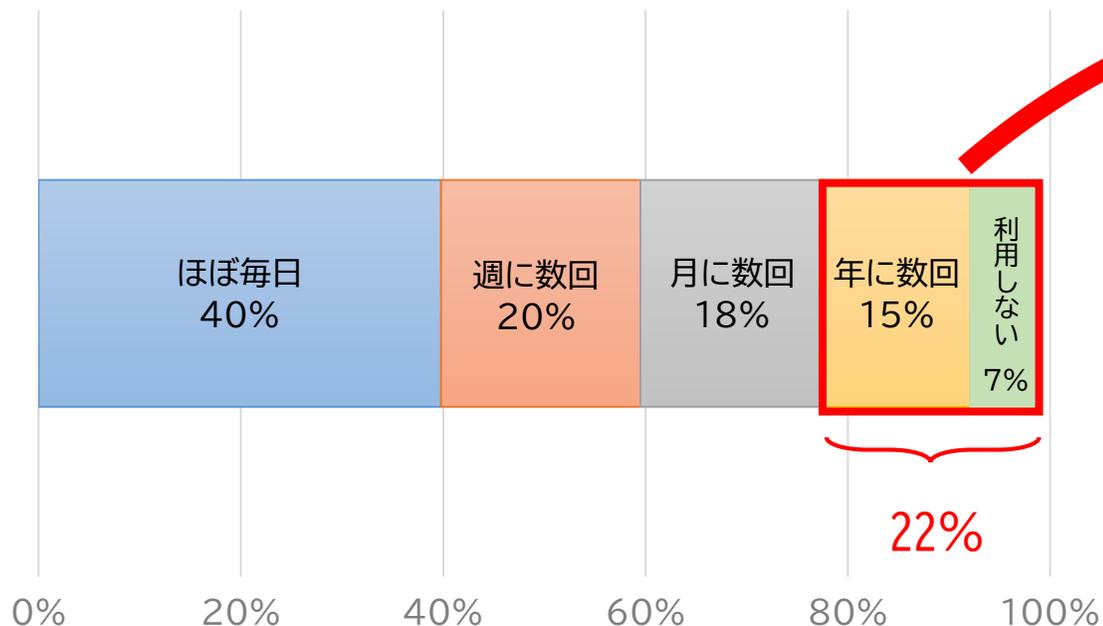
仕事の日だったので人が多くて困った。本数も変わらないので人が多く不快だった。



4 アンケート結果

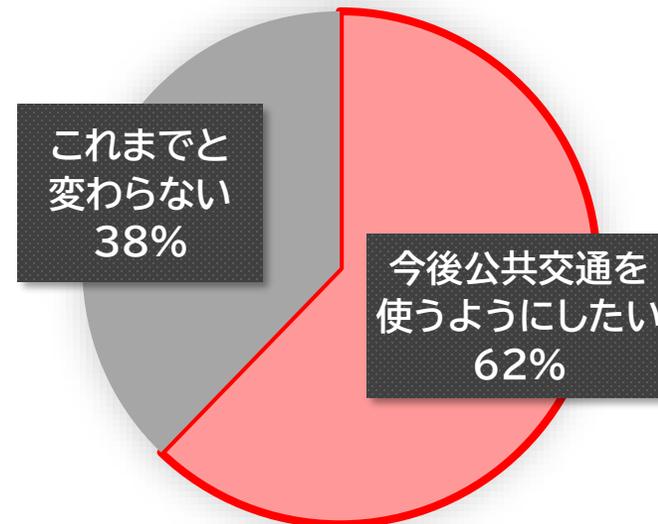
(3) 主な結果

エ：日頃のバス・路面電車の利用頻度は？



オ：今後の公共交通利用は変わるか？

日頃公共交通を利用しない人の回答

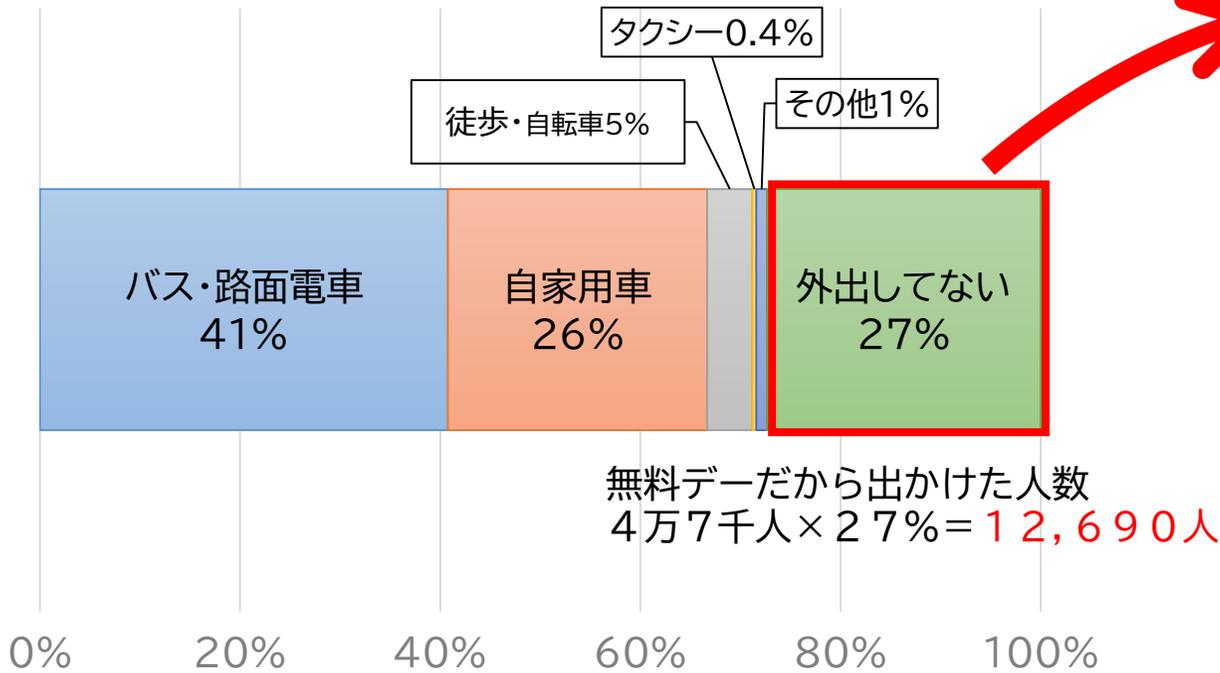


日頃公共交通を利用しない約2割の人のうち、
約6割の人が『今後公共交通を使うようにしたい』と回答

4 アンケート結果

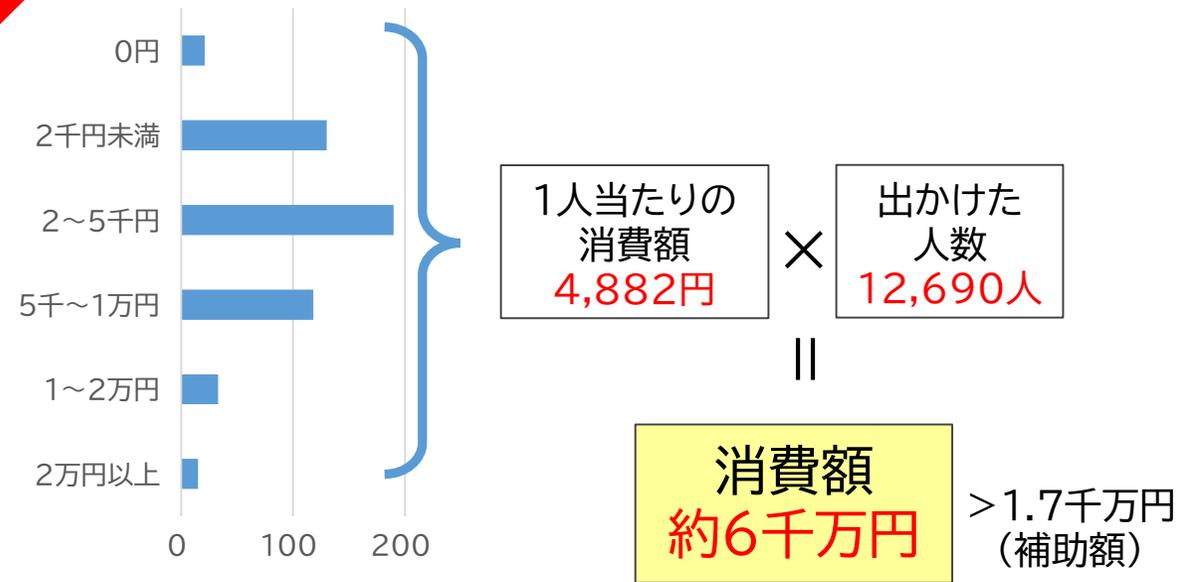
(3) 主な結果

カ：無料デーでなかった場合、どうやって移動してたか？



キ：1日に支払った金額は？

無料デーでなかった場合、外出していない人の回答

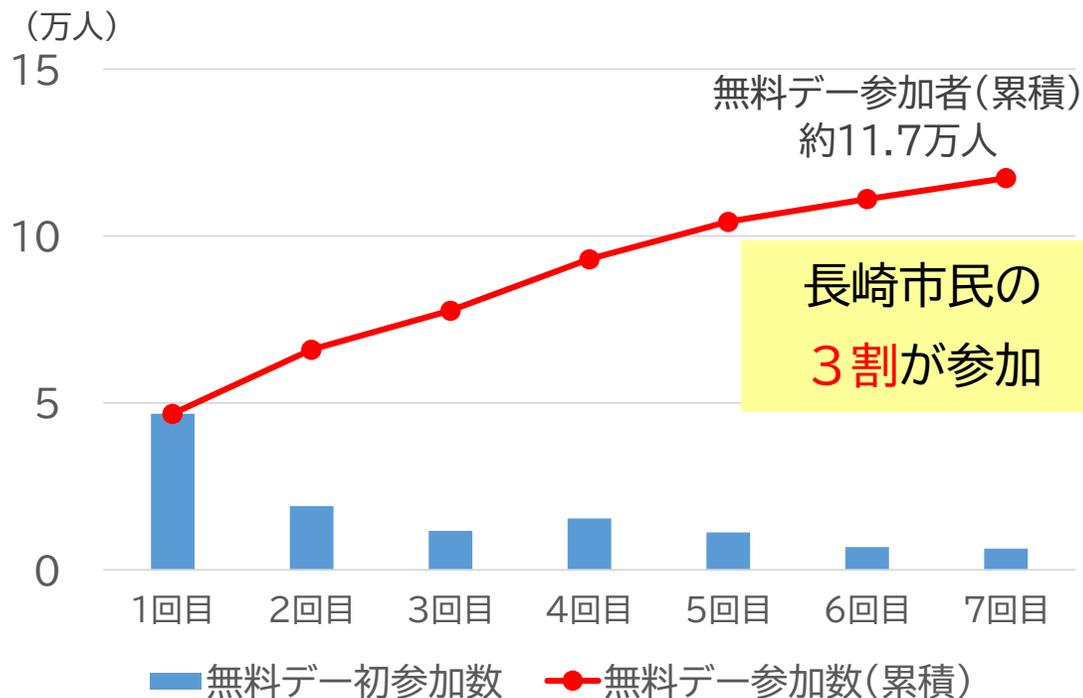


無料デーでなかった場合の移動は、約3割が自家用車
外出していない人も約3割で、それらの人が外出したことによる消費額は約6千万円

4 アンケート結果

(3) 主な結果

ク：無料デー参加者の推計

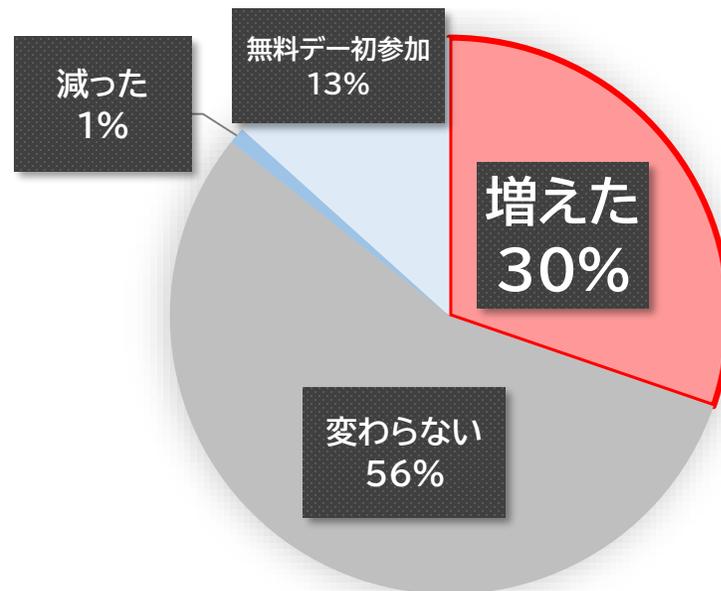


※各回アンケートで無料デー初参加と回答した人の割合から算出 (長崎市民のみ対象)

長崎市民の3割にあたる約11.7万人が無料デーに参加し公共交通に親しんだ

ケ：無料デーに参加し、普段の公共交通利用はどうか？

7回目結果 (最終回となる7回目のみ実施)



無料デーに参加し、3割がこれまでより公共交通の利用が増えたと回答

5 総括

○全7回実施し、前年度の平均に比べ1.7~1.8倍、当年度の平均に比べ1.5~1.7倍の利用があった

○副次効果として、商業施設や観光施設、まちなか等の賑わいづくりや、交通量の抑制に寄与した

○アンケートでは、日頃公共交通を利用しない約2割の人のうち、約6割の人から『今後公共交通を使うようにしたい』との回答が得られ、新たな需要の掘り起こしに繋がったものと想定される

○無料デーを参加した3割の方が、これまでより公共交通の利用が増えたと回答した